

リテラシー一斉授業における他者意識と自信度が及ぼす影響

栢木紀哉* 上田千恵** 若林義啓***

鹿児島県立短期大学* 旭川荘厚生専門学校** 広島国際学院大学***

1. はじめに

筆者らは、高等教育機関における情報リテラシー教育を、専門教育および将来の積極的なパソコン（以下、PC）利用を促すための重要な位置づけにある科目であると考えている。これまでの研究において、学習者の PC 利用に対する自信度に着目し、自信度向上を目指した授業モデルを提案してきた。そして、提案する授業モデルは、学習者の情報スキルレベルの格差に関係なく学習者の PC 利用に対する自信度を高め、積極性を身につけさせられることを確認してきた。高校までの情報教育では、職業を見据えた自由度の高い授業内容は難しく、実務につながる実践的な内容やより専門的な内容を高等教育機関では扱っていくべきであることも明らかとなっている¹⁾。その中で、学習者の積極性に影響を及ぼす要因の一つとして、実習中に交わされる学習者同士のコミュニケーションに着目し、コミュニケーションがどのような学習効果を与えるのかを調査することを目的とした研究を進めてきた。本研究では、各コマ終了時にアンケートを実施し、授業モデルを取り入れた授業実践での学習者の気持ちの変化、他者との遣り取りについてアンケート分析結果をもとに考察する。

2 実践内容とアンケート概要

2.1 授業実践の内容

実践の対象としたのは、看護師養成 A 専門学校の 1 年生を対象として開講されている必修科目「情報科学」のうち PC 利用について学ぶ 7 コマ（表 1）である。実践は、学習者約 50 名×2 クラスに対して行なっている。実践では、筆者らのこれまでの研究で明らかとなった知見をもとに、履修後の専門教育や実務での PC 利用をイメージできるテーマとして、以下の 3 つの内容を取り入れた。

- [1] 患者への提示を想定して、ある疾病とその改善を促す文書を作成し、適宜挿絵を入れながら、3 年次に履修する専門科目「看護研究」の抄録作成で必要となる段組による資料作成技術を学ぶ

Effect of Communication with Others and Self-confidence in Information Literacy Class

- * Noriya KAYAKI Kagoshima Prefectural College
 ** Chie UEDA Asahikawaso Health Care and Welfare Academy
 *** Yoshihiro WAKABAYASHI Hiroshima Kokusai Gakuin University

- [2] 一定期間の朝・夕に測定した学習者自身の体温・脈拍を基礎データとして表とグラフを作成し、時間的な変化から考察を行う
 [3] 学校生活アンケートの調査結果を集計し、分析を行う。専門科目や実務における表計算ソフトの活用性を示す

[1]では、ブラウザによる情報検索（Internet Explorer）、およびワープロソフトによる文書作成（Microsoft Word）、[2]、[3]では、表計算ソフトによるグラフ作成（Microsoft Excel）の技術を修得する。各コマの始めに、実務のどのような場面で PC が利用されているかを配付資料やスライドで示し、学生の PC 活用イメージ構築に努めさせた。

2.2 アンケート調査内容

アンケート調査は、「授業内容の学習経験」、「授業に対する評価」の 2 項目について、択一式と自由記述式による回答を求めた。

3. アンケートの分析と考察

設問「隣に PC に自信がある友達にいて欲しいか」の回答結果を図 1 に示す。70%以上の学習者が、「自信がある友達に隣にいて欲しい」と回答していた。この設問について「はい」、「いいえ」、「自分だけでどうかなる」の回答結果で 3 つのグループにわけ、グループごとの授業モデルに対する学習効果を調べるため、それぞれの設問についての回答平均を調べた。

これまでに学習したことがある内容かどうかについては、図 2 のように、「自分で考える」と答えた学習者の多くが、授業で扱った内容は既知の内容であったと回答している。次に、学習した内容の「難易度」について調べた結果を図 3 に示す。「自分で考える」と答えた学習

表 1 実践の内容

時間	演習内容	利用ソフト
1	・事前アンケート調査 ・ウィンドウ操作 ・学生用作業ファイル保存用フォルダ作成 ・文字入力練習	MS-WindowsXP MS-Word2003
2	・インターネットに関する知識、情報検索 ・疾病説明文の作成	MS-WindowsXP MS-Word2003 IE6
3	・挿絵を入れた疾病説明文の作成	MS-Word2003
4	・抄録で必要となる段組文書の作成 ・文書の実用印刷	MS-Word2003
5	・表計算の説明と表計算入門	MS-Excel2003
6	・体温と脈拍の表とグラフ作成 ・表とグラフの印刷	MS-Excel2003
7	・体温と脈拍の表とグラフ作成 ・アンケートの集計・分析方法について	MS-Excel2003

者を除くほとんどの学習者が、学習内容を難しいと感じている。筆者らが着目したのは、「自分で考える」と回答した学習者が比較的低い数値を示した、4時間目の“Word2”、7時間目の“Excel3”部分である。「友達にいて欲しい」と回答したグループとも有意差が認められており、学習者間で感じ方に差があると言える。この2コマでは、2.1の[1]、[3]の内容を扱っており、より実務に即した内容となっている。この2コマについてより詳細に分析すると、図5理解度と図6関心度では、3グループとも高いポイントで有意差は認められない。このことから、等しく内容に関心を持ちながら学習しており、理解や納得ができていていると言える。したがって、PC利用に対する自信度も上昇していることが想定される。

また、図4の探求性、図7の有用性についても、等しく意識を身につけさせられていることが伺え、知的作業を取り入れた授業モデルの授業を行うことで、学習者間に格差を持たせることなく、PC利用に対して十分な動機づけができ、将来の実務で積極的なPC活用に取り組む姿勢を持たせることができたと言える。

そして、学習者間で作品が異なり、答えが一位に定まらない内容での作業を進めさせることにより、学習者間

でのコミュニケーションも促進されており、学習者は自らの考えを整理、納得することで問題解決できていた。コミュニケーションを通して、PCを必要な道具であるという認識を深められたと言える。

参考文献

- 1) 若林義啓, 栢木紀哉, 上田千恵, 井原零: “普通科高校における教科「情報」実施状況に関する調査”, 平成18年度情報教育研究集会, 2006

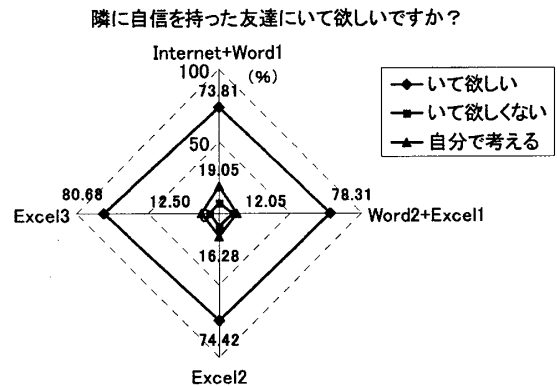


図1 「自信がある友達に隣にいて欲しいか」の回答結果

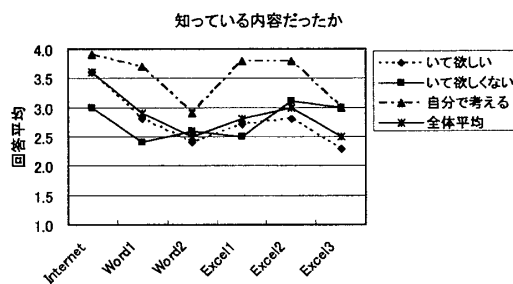


図2 認知度

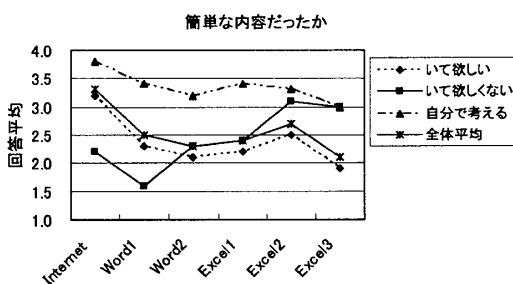


図3 難易度

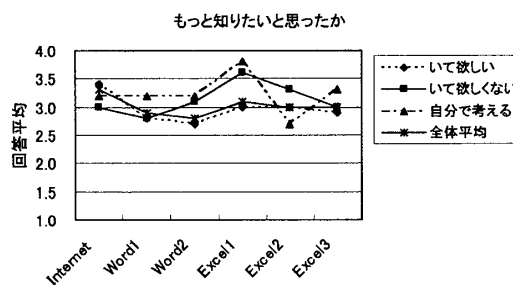


図4 探求性

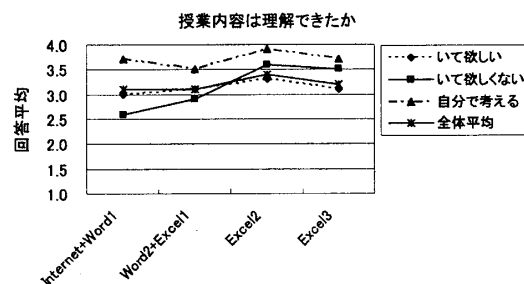


図5 理解度

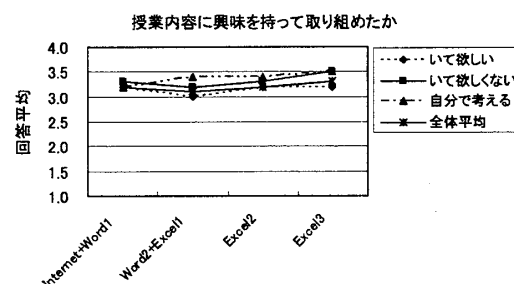


図6 関心度

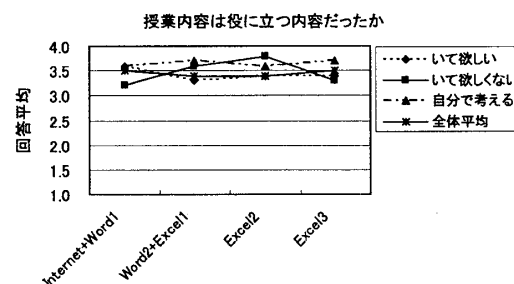


図7 有用性